

地域母子保健福祉情報紙 No.276

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）
 国及び地方自治体
 関係諸団体と連携協力して
 母子保健の重要性を啓発し
 母性の健康を守り たかめ
 心身ともに健全な児童の
 出生と育成に寄与してまいります

健やか親子 21
 全国大会によせて

“withコロナ”の親子支援 —その2—

令和 4 年度「健やか親子 21 全国大会」が皆様をお迎えして開催されますことに、ここからお喜び申し上げます。令和 2 年から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が蔓延し、令和 2 年度は中止となり、令和 3 年度は開催県の方は対面での参加、開催県以外の方はオンラインで参加するハイブリッド方式でした。私たちの行動から新型コロナウイルス感染症の影響はすぐにはなくならず、今回は対面での参加ですが、しっかり感染症対策を行っていただき、地元を持って帰る内容が多いことを願っています。

コロナ禍だからこそ大切に

親と子のコミュニケーション

COVID-19 の人との関係が密にならないようにという予防策は、生身の人間をできるだけ避け、インターネットの画面越しのおしゃべりの人間関係となりました。画面を家族やペットが横切るという

思いがけない発見がある一方、おしゃべりでは相手の匂いや汗、間合いといった対面で得られる阿吽のメッセージが届きません。

人が人を育てる子育てでは、マスク越しの保育をしている保育士さんから子どもとの細かいやりとりができにくいという声も聞こえてきます。また、食べることは喜びの一つで、さらに会話をしながらの食事は栄養摂取を促し人間関係の満足度を高めます。しかし、集団で昼食をとる場の保育園、幼稚園、学校などでは、お友達とのおしゃべりをしないで食べる黙食が進められています。一日三食の一食だけなら仕方ないかもしれませんが、では、あとの二食はどうしたらよいのでしょうか。

COVID-19 感染者がいない限り、家庭ではマスクをはずして生活をしますが、食事では、朝食はせわしないし、夕食も家族がばらばらだと食事を用意する親

の負担が増え、ゆっくりできないかもしれません。しかし、食事、入浴は子どもひとりずつの話を耳を傾けお



佐藤拓代会長

しゃべりができる時間です。COVID-19 がまだ蔓延しなかったとき以上に、おしゃべりを大事にして、子どもが親から関心を向けてもらっていると実感できる時間を増やしたいものです。

子どもの咀嚼や口の周りの動きが落ちているのではないかと歯科医師の心配があります。朝食の咀嚼は時間がとれないかもしれませんが、夕食は口をよく動かしてしっかり噛みながら、“今日はどんなことがあったの？”“お友達と何をしたのかな？”と、子どもが返事をしやすい話題を作って、たくさんおしゃべりをしましょう。

公益社団法人 母子保健推進会議

会長 佐藤 拓代

親子保健 No.272 に“with” コロナの親子支援を書いています。今回はそれを踏まえての内容としました。本会議のホームページから No.272 も読んでいただきたいと思います。私たちが早く COVID-19 を乗り越えることを願って。

今月のページ

健やか親子 21 全国大会に寄せて “with コロナ” の親子支援—その 2—	1
45 名と 1 団体の皆さまに心よりお祝い申し上げます。	2～7
紙上セミナー：8020 の里づくり「プレママ・パパ教室の歯科保健指導」	8～9
地域の課題を汲み対象者の関心を惹く啓発活動を 8020 の里賞受賞団体決定	10～11
妊娠期からの切れ目のない支援 ～こども家庭センター設置に向けて～	11
皆さまのご参加をお待ちしています！「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」	12

令和4年度「健やか親子21全国大会」が10月27日(木)、28日(金)、「つないで広げる支援の輪、みんな親子の応援団」をテーマに、島根県民会館(島根県松江市)にて開催する(主催:厚生労働省・島根県・松江市・社福)恩賜財団母子愛育会・一社)日本家族計画協会・公社)母子保健推進会議)。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から50年余の歴史ある本大会が、令和2年度は初めて中止となり、令和3年度は開催県(岩手県)の方のみ会場へ、他都道府県の方々はオンラインでの参加というハイブリッド方式となったため、今年度は3年ぶりに、全国から関係者を集めての大会となる。

本大会において、地域で母子保健の向上のために長年尽力され功績をあげていらした方々に対して公益社団法人母子保健推進会議会長表彰を受賞される個人45名と団体1団体の功績の一端を紹介する。なお、紙面の都合により以下のとおり省略する。昭和=S、平成=H、令和=R、母子保健推進員=母推、*功績紹介にあたっては推薦依頼時に了承を得ています。

個人の部

【岩手県】坂川真美(二戸市保健師) 地域ぐるみの母子支援、子育て支援をと保健委員協議会の育成支援、連絡・調整を積極的に行う。また地域のニーズを汲んだ母子保健教室の実施方法の検討や、外国人母の交流の場づくり、子育てサークルの継続支援にも努め、現在の母子保健事業における関係機関とのスムーズな連携にも寄与。「いのへ結・遊親子21プラン」(第三次母子保健計画)の策定、子育て世代包括支援センターの開設・運営では中心的役割を果たす。妊娠期から子育て期まで対象者目線の緻密な支援を推進。

【岩手県】千葉芳枝(奥州市保健師) 乳児家庭全戸訪問や乳幼児健診、妊産婦メンタル

45名と1団体の皆さまに

ヘルス事業、思春期保健事業等を実施。特に思春期保健事業では中心的役割を果たし、市内高校で生徒へ命の大切さを伝えた。関係課との連携を密にし妊産婦のメンタルヘルス事業や虐待の予防・早期発見に尽力、丁寧な支援を行う。コロナ禍ではビデオ学習に切り替えるなど母子保健事業を継続実施できるように工夫し、妊産婦等が安心して参加できるように努めるなど母子保健事業の推進に貢献。

【宮城県】森美智江(亘理町助産師) S63年から在宅助産師として産婦・新生児訪問指導業務に従事し、毎年100件近くの世帯を訪問、H15年からはEPDSを用いた産婦のメンタルヘルスケアにも尽力。養育支援訪問事業も担い児童福祉分野からも親子を支援。H24年からは町の臨時職員として、訪問等に加え母子健康手帳の発行時の問診や集団・個別指導、乳幼児健康相談、子ども未来ネットワーク協議会、子育て世代包括支援センターには開設時から中心的に関わる。地域では民生委員や主任児童委員を務めるなど、気持ちに寄り添った活動で住民の信頼は厚い。

【宮城県】高野由美(石巻市栄養士) S57年~母子保健の向上、成人や高齢者の健康づくりの普及に尽力する。乳幼児健診での栄養指導のほか、離乳食教室、子育て支援センターでの食育講座、保育所給食の献立作成、学童期の子どもの向け親子料理教室など、地域に根差した栄養支援活動に長年にわたり貢献。地域の小中学校と連携し、文化祭などの学校行事の中で健康コーナーを設け子どもからお年寄りまで家族全員を対象にした生活習慣病予防事業も実施。後進の育成にも尽力。

【栃木県】星野典子(保健師) 県職保健師として保健所や本庁各課において地域の特性

を踏まえた地域療育システムの構築、乳幼児健全育成事業、小児期からの生活習慣病対策、思春期保健事業、医療的ケア児の実態調査や協議の場の設置、小児在宅ケアシステムのネットワークづくり等に尽力。H31年からは県こども政策課において地域全体で子育てを応援する機運の醸成、妊娠早期からの切れ目ない支援を関係機関と連携して実施する体制の構築に尽力。R3年には産婦人科医会等の協力のもと「にんしんSOSとちぎ」を設置。するなど、関係部署や機関との連携、協働により、母子保健の向上に幅広く貢献。

【埼玉県】大井川芳江(上尾市母子愛育班員) H12年より愛育班員として活動。H16年から会長、H29年より埼玉県支部副支部長併任。地域で「親子のつどい」を定期的に開催、R3年度は199回開催し1,339人の親子が参加。市の母子保健事業(こんにちは赤ちゃん事業訪問員、フッ素塗布事業受付等)やCOVID-19ワクチン接種会場での託児等実施、関係団体役員等歴任。会としてもH28、29年度には恩賜財団母子愛育会より模範愛育班の指定を受ける。H30年度「健やか親子21全国大会」にて厚生労働大臣表彰受賞。

【神奈川県】青島恵美子(助産師) S61年から病院や診療所、助産院、市の保健センター、産後ケアセンター、開業等により臨床実践多数。分娩(立ち会い含む)約1800件、母乳相談約1900件、母親学級約60回、新生児訪問約250名、産後ケア約230名に携わり、産前産後の母親や新生児のケア等を行うなど、母子とその家族を支援してきた。大学教員として教育にも力を入れ、病院等での臨床指導を行う。大学院博士課程では、産後ケアをテーマに研究を続けるなど自己研鑽にも取

心よりお祝い申し上げます



対面での本大会は3年ぶりとなる
写真は令和元年度大会の式典の様子

り組み、母子の支援に多角的に取り組み、その功績は大きい。

【富山県】網代千代（高岡市母推）H20年度から母推として活動。7か月児のいる家庭を訪問し予防接種の勧奨や歯科保健の大切さを呼びかけつつ母親の想いに寄り添い、支援の必要な母親は行政保健師につなぐなど、地域と行政を繋ぐパイプ役となり、切れ目のない支援の一翼を担う。協議会活動として行っている「赤ちゃんにこここ教室」では親子がリラックスできる場の提供と親同士の交流、仲間づくりを促進。地域の保育園保育士等とも連携を密にし情報交換し保護者へ提供。現在、富山県母推連絡協議会会長、高岡市母推協議会会長として協議会の活性化や地域の子育て支援の基盤づくりに尽力。

【石川県】船佳代子（珠洲市母推）

H7年から母推として意欲的に地域の親子の健康に関する啓発・普及活動や相談活動に取り組む。保育士の知識や経験を生かした身近な相談役として地域住民の信頼も厚い。H29年から会長を務め、さらなる活動の推進を図る。特に「子育て教室」での手づくり絵本の読み聞かせや、

MCG（母と子の関係を考える会）における参加児の見守り等では中心的な役割を果たした。長年にわたり地域の母子保健の向上に寄与し、その功績は顕著である。

【石川県】鶴之家佐和子（志賀町母推）「安心して産み、ゆとりを持った楽しい子育ての実現」を目標に、S57年より40年の長きにわたって地域の母親と行政を結ぶパイプ役として活躍、乳幼児健診等への事業協力や参加勧奨等に積極的に取り組む。特に育児支援教室では、若い母親たちの悩みを丁寧に聴き、良き相談相手として慕われている。出生率の低い地区において、若い母親たちが地域に早く馴染むよう積極的に声掛けを続けながらサポート。日常の相談から必要と思われる場合は保健師につなぐ等、育児不安を持った母親に

寄り添う活動で地域からの人望も厚い。

【福井県】八十島照美（坂井市母推）H15年から市母推の活動を通して母子保健サービスの向上に貢献。地区活動では、折り紙のコマを作成し幼児健診で計測を頑張った子どもに渡したり、布おもちゃを作成し保育園を訪問し園児と交流を図っている。「坂井市母子保健推進員だより」を作成し、身近な用品を使っておうち時間を楽しめるような手づくりおもちゃを紹介し住民から好評。明るく温かい人柄で、育児相談や幼児健診に来た親子へ積極的に声掛けし、親子が安心して相談できるような雰囲気づくりに努める等親子からの人望も厚く、地区の母子保健の向上に貢献。

【福井県】坪川悦子（永平寺町保健師）地域の母子支援体制の構築のため地域診断を行い、「地域とのつながり」や「むし歯予防対策」が必要との課題を明らかにし、育児サークルの立ち上げや保育園でのむし歯予防教室、フッ素塗布事業などの新事業を開始、他機関と連携調整し切れ目のない育児支援を実施。1歳から中学生までのインフルエンザ予防接種費用の助成、子育てサークル等での手洗いの徹底など公衆衛生教育にも尽力。町の保健計画策定において、アンケート結果より家族全員を巻き込んだ健康づくりを推進、健康づくりポイントカード、家族それぞれが目標を決め取り組める方法を作るなど、町全体

お口の恋人
LOTTE

むし歯のない社会へ。 ロッテ キシリトールガム

もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。キシリトールの世界が広がりました。
大切な歯のために、キシリトール習慣！

消費者庁許可 保健機能食品（特定保健用食品）（公財）日本学校保健会推薦（一社）日本学校歯科医会推薦

食品初！ 日本歯科医師会推薦商品 **XYLITOL**

www.lotte.co.jp
かんだ後は包んでくずかごへ。

の母子保健、健康増進に大きく貢献。

【岐阜県】近藤万知（歯科医師）大学病院等を経てH5年に歯科医院を開設。R3より県歯科医師会常務理事。自らの妊娠、子育て経験を生かし、妊産婦に対して口腔ケアや食生活など具体的な歯科健康相談や治療を行う。乳幼児に対しても、1人ひとりの子どもの発達に応じた食事指導、舌トレーニングなどの機能訓練を取り入れた保健指導にも力を入れるなど、乳幼児とその母親の歯科保健意識の向上、公衆衛生の普及・向上に尽力。市町村の母子保健活動にも協力を惜まず、子育て世代に向けた歯と口腔に関する小冊子を多数作成するなど、その功績は顕著である。

【愛知県】服部明子（保健師）県内の病院や保健所、大学等で、母子療育指導マニュアルの作成、健やか親子21市町村計画作成委員、児童虐待防止の対応力向上のための体制検討し関係職員への指導など、地域に密着した母子保健活動を献身的に行い、母子保健の発展・向上に寄与した。さらに若手保健師の人材育成や学生への健康教育、県保健所と市の間での役割や業務の相互理解、連携強化を図るなど支援体制の強化にも努めた。近年は療育相談事業にて、特に長期療養が必要な子どもたちとその家族への相談や、医療的ケアを必要とする親子の支援に尽力している。

【三重県】山崎美穂（名張市保健師）H7年より母子保健を担当。H23年、子ども発達支援センター設置準備室では、健診情報システムの改修、医師会との連携調整等行い5歳児健診を取り入れ、病院の小児発達外来と連携を図り、健診から発達外来へ繋がる仕組みや保育所や小学校へ支援が続く仕組みを構築、子どもの発達支援が母子保健から医療、児童福祉、教育すべてが繋がる体制づくりに尽力。さらに事業や支援体制が薄かった妊娠、出産期の充実を図り、切れ目ない支援を行う

名張版ネウボラのシステム構築につながった。現在子育て世代包括支援センター長として幅広く貢献。

【滋賀県】森みち子（助産師）長浜赤十字病院で約2000件の分娩を取り扱い、多くの妊産褥婦を各個人に合わせた保健指導を行う。また、助産師外来や院内助産の開設に携わり、産後2週間健診導入には中心的な役割を果たすなど、妊娠期から産後まで、市と連携しながら妊産褥婦に寄り添った切れ目ない支援に尽力。助産師の育成・教育にも熱心で、県内の看護学生、助産学生の実習指導等に積極的に取り組む。性教育にも熱心で、近隣の小学校で「いのちの学習」を行うなど活躍は多岐にわたり、母子保健への功績は多大である。

【兵庫県】濱田圭子（保健師）県保健師として県内各保健所で課題を整理し母子保健の向上に努めた。医師不足の地域では小児救急体制の再構築や電話相談窓口の普及に努め、保健所統合の際には低出生体重児訪問におけるEPDSの導入を行う。また未熟児訪問等市町への事務移譲を踏まえ、市町保健師に同行、個別事例の検討を行いマニュアルを作成するなど尽力。R1に日本看護協会保健師職能委員に就任してからは、厚労省の調査研究事業の委員や検討会の構成員を務めるなど、母子保健の向上に多角的に貢献。

【岡山県】大塚由美子（岡山市愛育委員）H9年から愛育委員として長年熱心に活動を続け、中央地域愛育委員連絡会副会長、市愛育委員協議会理事として会長をサポートし他学区の会長からも頼りにされている。学習の場にも積極的に参加し学区の愛育委員に伝達。子育て支援に特に力を入れ、おやこクラブや子育て広場への積極的な支援、こんにちは赤ちゃん訪問ボランティアなどを率先して



令和3年度「健やか親子21全国大会」収録の様子（東京会場）

行う。任務を深く理解した細やかな愛育活動で住民からの信頼は厚い。表彰歴多数。

【岡山県】中村政子（笠岡市愛育委員）S57年から活動。各種健診の受診勧奨をはじめ、母子や高齢者への声かけ、見守り活動などを行い、地域全体の健康づくりを支援してきた。研修会等で自己研鑽にも努め、地域への普及啓発活動に生かしている。H22年からは認知症キャラバンメイトとしても取り組み、これらの長年にわたる熱心な活動が住民の孤立を防ぎ、互いの絆を深めることへ繋がっており、地域の健康づくりへの貢献は多大。住民からの信頼も厚く、表彰歴多数。

【山口県】越智睦子（宇部市母推）S63年より活動をはじめ、今年で34年目。地区のリーダーとして育児サークルの主催・運営、行政の育児相談事業への協力など長年にわたって行う。母推が研修を受けて活動する乳児家庭全戸訪問事業の訪問員としても、乳児がいる家庭を訪問し、育児に関する情報提供や家庭の養育環境の確認、育児に関する相談を受け、また専門職等の支援が必要な場合は、迅速に担当保健師等に情報提供するなど行政とのパイプ役も担っている。地区の住民、他の母推、行政からも信頼が厚い。

【香川県】松永真理（丸亀市母推）H18年から活動。妊娠28週以降の妊産婦や転入してきた乳幼児のいる家庭を中心に家庭訪問を行い、地域の子育て情報や母子保健事業の情

報提供を行い、必要に応じて地区担当保健師につないでいる。毎月1回実施の「子育て広場」では、他に従事する愛育班員や保健部会の方々と効果的な運営に尽力。また各種健診や離乳食講習では受付や声掛け、母推で作成した歯みがきの前段階として「乳幼児期から始めるおくちのマッサージ」の啓発にも努めるなど、他の推進員の模範であり、地域住民、市の職員からの信頼も厚い。

【愛媛県】伊藤由紀子（西条市保健師）

旧小松町に奉職、合併後は、各市町で行われていた育児支援教室を改革し、発達面で経過観察の必要な親子に対し各職種・機関の連携継続支援体制を構築。乳幼児健診でことばの発達についての相談が多かったことから、言語聴覚士や臨床心理士の協力のもと指導用教材を作成し、保護者の不安軽減や保健師の専門能力の向上を図る。成長や発達に不安のある児の相談機関「ウイングサポートセンター」開設にあたっては企画・準備に中心的に携わるなど、地域の母子保健向上に尽力。

【愛媛県】清家友子（宇和島市保健師）旧津島町に奉職。乳幼児健診におけるう蝕の現状を分析し2歳児歯科相談を導入。1歳6か月児健診経過観察事業では療育支援とピアサポートの充実を図り、3歳児健診では要フォロー児の早期発見・支援につなげる体制づくりに努めた。市町合併以後は、旧津島町で実施していた小児生活習慣病予防事業と「思春期の子を持つ親のつどい」を全市に拡大。高校性を対象とした教室や講座を開催するなど思春期保健にも力を注ぐ。障がい児支援に各関係機関との連携強化のため「リレーファイル」の作成に中心的に取り組むなど、子どもの健やかな成長のために幅広く貢献。

【佐賀県】成清芳子（鳥栖市母推）H18年度より活動開始。7か月児のいる家庭を訪問し健診や教室のお知らせをし、子育て世代の

母親に声掛けをしたり、各種教室等市の母子保健事業への協力を行っている。H27年度からは鳥栖市母子保健推進協議会会長を務め、H29年度からは、佐賀県母子保健推進協議会理事・鳥栖支部長も務めている。行政とのパイプ役、気軽に相談できる存在として母親たちからの信頼が厚いとともに、他の推進員、市職員、関係機関からの信頼も厚い。

【佐賀県】千葉照美（唐津市母推）H13年度から活動開始。唐津市厳木地区では「手づくりおもちゃ推進活動」に取り組んでおり、月1回のおもちゃづくりやこんにちは赤ちゃん訪問で手渡す巾着袋づくりに積極的に取り組む。育児サロンで行う「ミニ運動会」の運営手伝い、また看護師として各種保健事業にも従事し、母親の相談に乗り支援が必要な場合は行政につなぐパイプ役も担う。H30～R1には佐賀県母子保健推進協議会唐津支部長を務め、地区のまとめ役としても手腕を発揮。温厚で明るい性格から会員、母親、行政からも信頼が厚い。

【佐賀県】溝上ひとみ（白石町母推）H8、自らも子育てをしながら活動開始。手づくりおもちゃを持つての赤ちゃん訪問や乳幼児健診・相談の補助、育児サークルの立ち上げ・運営など、地域に密着した活動を実施。母子健康診査時には、計測のみならず子どもの様子を見、母親の話をじっくり聴き母親の不安の軽減に努め、母親からの信頼も厚い。県や町が実施する研修会にも積極的に参加し自己研鑽に努め、また母推の意見をまとめて母子保健事業に提案するなど、常に対象者目線の母親に寄り添った支援を行っている。

【長崎県】大串千恵子（松浦市母推）H11年度から活動。乳幼児健診時にも母親に声掛けを欠かさず、地域における母子保健の窓口として、母親たちから頼りにされている。常に母親の立場に立ってものごとを見ることを

心がけ、活動時以外でも、地域で母親、子どもたちに声をかけ、安心して生活できる環境づくりに多大な貢献をしている。責任感が強く、明るく温情深く、子育てのよき相談相手として、地域の方からの信頼も厚い。

【長崎県】吉田トム子（松浦市母推）H17年より活動。乳幼児健診をはじめ、市の母子保健事業へ積極的に協力。地域における母子保健に関する相談窓口となっている。常に母親の立場に立ってものごとを見ることを心がけ、活動時以外でも、地域で母親、子どもたちに声をかけ、安心して生活できる環境づくりに多大な貢献をしている。明るく誠実な人柄で、ボランティア精神に富み、地域の子育て支援全般に積極的に取り組んでいる。

【長崎県】竹下さちゑ（南島原市母推）H8年から現在まで、26年半にわたり活動。市が合併したH18年には、8町合併で活動が混乱するなか取りまとめに尽力。家庭訪問や健診時には、熱心に母親の話を傾聴し子育ての不安軽減に努め、その姿勢は、後に続く母推の手本となっている。温厚な人柄で地域の信頼も厚く、親子支援だけでなく祖父母のいる家庭では世代間の相互理解の促進にも努めるなど、子育てしやすい環境づくりに尽力。

【宮崎県】甲斐晴子（延岡市母推）看護師として医療機関に20年、高齢者施設に5年の勤務経験を生かし、H24年から市の乳幼児健診等のスタッフに就任。併行してH26年からは母推としても活動を開始。看護職として乳幼児健診、幼児歯科健診、7か月健康相談、乳幼児相談等さまざまな母子保健事業に携わっている経験を生かし、子育てに関する情報提供、乳児とその母親の心身の状況や養育環境の確認、未受診者への受診勧奨等を行う。家庭訪問では、育児不安を抱える母親への寄り添い傾聴、支援を要するケースは早期に保健師へつなぐなど、市の母子保健サービ

スの向上に寄与した功績は非常に大きい。

【沖縄県】石川春美（うるま市母推） H9 年より25年にわたり活動。乳幼児健診、2 歳児歯科検診、未受診者受診勧奨訪問、離乳食教室などの母子保健事業に協力。育児中の保護者の声を丁寧に受け止めるよき相談役であるとともに、研修会にも積極的に参加し自己研鑽に努め地域に還元。明るい人柄で、地域住民からの信頼も厚い。母推の会の役員を複数回務め、令和3年度後期は副会長を務めるなどリーダー的存在。民生・児童委員、食生活改善推進員としても活動するなど、住民と行政のパイプ役として幅広く貢献。

【千葉市】神山きみ子（地域保健推進員） H14年度に市が地域保健推進員を設置するとともに初年度に委嘱、今年度で20年目となる。生後2か月児のいる家庭を訪問し、保護者から熱心に話を聴き、必要に応じて担当保健師に連絡する活動に取り組んでいる。H22年からは、市が主催する絵本ボランティアの養成講座を受講し、4か月児健康診査を受診している親子に絵本を紹介する活動も行い、保護者が赤ちゃんとゆっくり関わる時間をつくることを勧めるなど、地域に貢献。

【新潟市】和泉久美子（助産師） 30年余にわたり新潟市(合併前は4市3町)、阿賀野市の2市において、産後の母子訪問、行政の出産準備教室(安産教室・両親学級)に従事。ベビーマッサージやわらべうたベビーマッサージの資格等取得し、地域の子育て支援センター等で開催される講座やサロンの講師として出向き、子育ての知恵を伝え、育児不安の軽減に尽力。また、自宅出産の介助も、これまで約100件行う。新潟市助産師会の活動の一環として、新潟市内外の小中学校に「生と性の健康教育」を行い、多様な生き方を理解しやすいのちを大切にする活動を行うなど、広く母子保健、子育て支援に貢献。

【浜松市】押川浩美（助産師） H11年に浜松市助産師会に入会とともに市の母子保健事業、母子健康手帳の交付、母親学級や両親学級の運営や講師、親子すこやか相談、新生児訪問等に従事。子育て支援ひろば事業では、出産前から産後まで母子が安心して過ごせる居場所となるよう支援・助言。女性の健康相談事業では、妊娠前から更年期の女性の相談に、気持ちに寄り添い傾聴することを心がけて相談に応じ、プレコンセプションケア、不妊症の方へのケアにも取り組むなど広く母子に寄り添う支援を行い、その貢献は大きい。

【神戸市】稲生浩美（助産師） 病院勤務の後、神戸市の新生児訪問指導員として従事。神戸市助産師会の性教育講師として年間3～5校の中学校でデリバリー授業を担当。助産院開院後は、助産所での出産、妊産婦保健指導、乳房ケア、ベビーマッサージ教室、また神戸市の委託事業として産後ケア(宿泊・通所/子どものきょうだいや夫も受入れ)などを実施。市の事業として小学生対象に「いのちの感動体験授業」も担当。H27年からはNPO法人母と子のケアサポートふすあんの設立当初からの理事として産前産後ケア事業、母子を含む地域住民への健康教育事業等、地域住民の健康づくりに広く貢献。

【岡山市】佐藤千従（保健師） H8年より市内保健センターで母子保健活動に携わる。H31年度から市保健所にて母子歯科保健を担当。産科医療機関・精神科医療機関等の連携システムの構築。産後ケア事業の立ち上げおよびその後のフォロー体制の整備、子育て世代包括支援センターにおいて妊娠届出時に保健師、助産師による全数把握事業を開始。またコロナ禍においても安心して相談ができるようオンラインによる相談を導入した。さらにR2年7月からは不育症治療事業をたちあげるなど、安心して妊娠、出産、子育てが

できる環境づくりの推進に尽力。

【柏市】橘房子(柏市民健康づくり推進員) H14年度より市長の委嘱を受け活動開始。3か月児のいる家庭を訪問し、市や地域の子育て支援情報を伝え相談にのる。1歳6か月までの乳幼児と保護者のつどいを毎月趣向を凝らして開催、また、思春期保健の一環として中学生に「命の大切さ」を伝える授業に行政とともに取り組む。ニュースポーツ等の地域健康講座を実施し、住民の健康づくりのための啓発活動を実施。食育推進活動では、栄養士と協働で調理実習等を行う。ほか、町会や関係団体との連携により、子育てサロンや支え合い活動の運営に中心に関わるなど、母子を中心に地域の健康づくりに貢献大。

【甲府市】藤巻敬子（管理栄養士） H9年から行政で栄養相談・指導、健康教育に従事。H21年度策定の「甲府市食育推進計画」では中核となり乳幼児期から食育を推進するため、保育所や教育機関、企業等と行政が連携を図りながら食育を推進していく土壌をつくった。朝食の欠食や栄養の偏りなど子どもの食を取り巻く諸課題に対処するため、市歯科医師会や関係団体と連携体制を構築し、多職種協働の「味覚教育」を認定こども園や小学校等で実施、コロナ禍ではYouTubeで配信。妊娠期から思春期における諸課題にも、保健師、助産師と連携を図りPDCAサイクルに基づいた事業展開に努める等尽力。

【松江市】藤原みえ子（母推） H14年より活動。市が実施する乳幼児健康相談、離乳食教室時に円滑な運営のためのサポート役として活動。地域活動としては、公民館の乳幼児学級、その他公民館活動に協力し、地域の母と子の集いや交流の場を支援し、母子の孤立化防止に尽力。H19～24年、H31から現在まで松江市母子保健推進協議会副会長として会長をサポートし、会の運営に尽力。地区の



令和元年度「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」

親子、会員からの信頼も厚い。

【松山市】井内由美（母推）H17年に「松山市母子保健推進員養成講座」を受講後「松山市母子保健推進協議会」に入会。本協議会は結成から50年の歴史を持つ。氏は「こんにちは赤ちゃん訪問」では1件1件丁寧な対応を行い、担当地区の母親から信頼が厚い。その後の事例検討も熱心に取り組み、会員のスキルの向上にもつながっている。会員の有志による読み聞かせ活動である「いるか倶楽部」では、手づくり紙芝居を作り親子から好評であるとともに、乳幼児期からの子どもの読書推進にもつながっている。事務作業にも長け、名簿や当番表の作成等を担い、会の運営にも欠かせない存在である。

【那覇市】棚原順子（母推）H4年から30年にわたり活動。行政とのパイプ役として、子育て応援訪問（乳幼児健診未受診訪問）をはじめ各種母子保健事業に積極的に協力。小中学校での思春期教室では、保健師とともに妊婦体験や沐浴人形の抱っこ体験、胎児人形を通しての命の大切さを伝え、また喫煙が胎児に与える影響を伝える活動も行っている。また、こども発達支援センターやダウン症児の親子の集いにも、保護者が安心して参加できるよう育児ボランティアを行っている。協議会の役員や副会長も歴任し、保護者のみならず会員、担当保健師等からも信頼が厚い。

【中央推薦】有松美紀子（歯科医師）新潟

県胎内市で歯科クリニックで診療しつつ、複数の小学校で学校歯科医を務める等小児歯科に熱心に取り込む実績から「新潟県よい歯の学校・園運動審査会」副会長、「親と子のよい歯のコンクール中央審査会委員」を務める。また「歯科関係者のための食育支援ガイド2019」の作成や日本歯科医師会主催の公開フォーラム「多職種による母子保健の推進～歯科の提案～」(H30)の企画運営に参画、本会議機関紙「親子保健」の連載『8020の里づくり』を他3名の先生と輪番で執筆する等、幼少期からの多職種と連携した口腔の健康づくりの重要性の啓発に尽力。

【中央推薦】小前みどり（歯科衛生士）H53年に兵庫県に入庁、R3年より日本歯科衛生士会常務理事、地域歯科保健委員会委員長等を務める。R2、3年度に日本歯科衛生士会として、歯みがき、甘味飲食、フッ化物応用のポイントをまとめ、乳幼児健診でそのまま活用できる「母子保健指導用カード」を作成。また「乳幼児健康診査事業実践ガイド」に基づく多職種連携で行う保健指導について」をテーマに、母子保健の基礎と歯科衛生士の役割について研修動画を作成するなど歯科衛生士が母子保健の全体像や基本的な考え方を学ぶ機会を作るなど尽力。R1年度より本会議が実施する「8020の里賞」（本紙10～11頁参照）審査委員を務める。

【中央推薦】服部律子（大学教員）助産師、大学教員として思春期から産後までの親になることを支える活動に尽力。多数の中学・高校において思春期の子どもたちの性の健康教育、H14年からは中学1～3年生に対してブレコンセプションケアを行っている。また、日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会認定講師、理事として、全国の

思春期ピアカウンセラー養成にも尽力。本会議が実施する保健師等対象の「子育て世代支援者養成セミナー」や子育て中の母親に対する「リフレッシュママクラス」の講師も務め、それらの実績から、厚労省の調査研究事業にもたびたび携わる。専門職対象の研修会講師、中学・高校生に対する講演等多数。

【中央推薦】赤尾さく美（助産師）助産師として病院や大学での勤務、研究の経験を生かし、国際NGOではアフガニスタンでプロダクティブヘルスに焦点をおいた健康教育等行う。H25年に現代表と立ち上げたペアホープでは、理事・助産師・保健師として年間300件以上の妊娠葛藤相談、特別養子縁組、官民連携事業、妊娠期の居場所づくり等伴走支援を、多くの専門職、多機関と連携して行っている。H27年には全国妊娠SOSネットワークを立ち上げ、全国の妊娠相談窓口の質の向上のため「予期しない妊娠への相談対応研修」を全国展開すべく企画・コーディネート・講師を務めるとともにネットワーク化を目指す活動を展開するなど、幅広く尽力。

団体の部

【埼玉県所沢市】松井地区母子愛育班（代表・羽取享子）所沢市母子愛育会の一団体としてS42年から活動を開始。現在22名の班員は母推も兼ね、健診への協力や声かけ訪問、乳幼児健康相談への協力、健康まつりへの参加、見守りを通して母子から高齢者までの健康づくりを支援。主催する離乳食講習会や乳幼児救急講習会では子育て世代の孤立を防ぐことにも貢献。公民館主催の毎月の子育てサロンに協力するほか、世代を問わず地域住民に愛される「まつい三世代まつり」では実行委員会の中核を担う。これらの積極的な活動が他地区の母子愛育班の模範にもなっている。（敬称略）

紙上セミナー SEMINAR 8020の里づくり

プレママ・パパ教室の歯科保健指導

マイナス1歳からのむし歯予防

歯科口腔保健の推進に関する法律が平成23年8月に公布・施行されてから、全国の自治体における歯科保健に関する条例等が整備され、我々歯科医師も歯科医療のみならず歯科保健にかかわることが期待されています。私の県においても、「マイナス1歳からのむし歯予防」と称して、産科におけるプレママ・パパ教室に出向いて、歯科保健の講演等を行う機会が増えていきます。プレママ・パパ教室の様子をご紹介します。

プレママ・パパ教室のカリキュラム

産科によって出産準備クラスのカリキュラムは様々ですが、その中で15分から30分程度の時間をいただいて、歯科医師によるミニ講演と歯科衛生士によるブラッシング講座を実施しています。私がお邪魔する病院では、日曜日の午前のパパ・ママクラスで沐浴練習やパパの妊婦体験のあとで講

演を行っています。

担当されている助産師さんも一緒に講演

を聞いていただけるので、講演後に助産師さんからの質問にお答えし、こちらからも最近の出産準備クラスの様子や、周産期の課題についてもお話を伺うこともできています。産科における歯科保健指導が産科医・助産師等との多職種連携によることを実感する場面です。

歯科医師によるミニ講演

歯科医師が担当する講演は、主にスライドを用いて、実際の乳幼児から成人までの口腔内写真等を示しながら、成長発育の過程について説明をします。乳歯の萌出時期から永久歯の交換時期までを説明しながら、少し長い目でみた、子どもの健康管理についてお話するようにしています。プレママ教室ではパパだけでなくご兄弟も参加されていることもあ

マイナス1歳からのむし歯予防

- 1 赤ちゃんのむし歯菌は主に、ママ・パパから伝播してきます。
- 2 悪阻(つわり)のある時の口腔ケア。
- 3 乳歯・永久歯は妊娠中に作られます。

赤ちゃんの為に今から…!

紙芝居型資料 抜粋1 (徳島県歯科医師会作成)

よ坊さん

り、こちらから質問をしながら、家族の皆さんの記憶に残る講演を心がけています。

むし歯予防に関しては、まず、原因菌のミュータンス菌は乳歯が生える1から2歳頃に口腔内に定着しやすくなること、むし歯の原因となる4つの要素、「歯質」「むし歯菌」「糖質」「時間」について説明します。

次に、赤ちゃんの歯ブラシデビューのポイントについてのお話をします。歯ブラシの取り扱いに関しては、後の歯科衛生士の指導で詳しく説明をします。栄養に関すること等についても、妊娠中のバランスの取れた食事が赤ちゃんの丈夫な歯をつくることや、子どもの歯と口腔の機能発達と食生活についても触れながら、栄養面だけでは

歯ブラシの選び方

乳幼児期の歯磨き習慣は、永久歯のむし歯予防に大切です。寝かせ磨きの姿勢を整え、お子さんのお口の中をしっかりと管理してあげてください。

歯が生え始めるまで 歯が生え始める頃	口のまわりや口の中は、敏感な所なので、ガーゼや綿棒で優しく軽く磨いて慣れさせてあげましょう。
歯が生え始める頃 歯が生え始める頃	毛先がやわらかく、歯ブラシのヘッドが小さいものを選びましょう。
歯が生え始める頃 歯が生え始める頃	幼児用の歯ブラシ・仕上げ磨き用歯ブラシを用意しましょう。仕上げ磨きは寝かす時期ですが、1日1回は仕上げ磨きをしましょう。 持ち手とネックが長い 仕上げ磨き用歯ブラシ 幼児用歯ブラシ
歯が生え始める頃 歯が生え始める頃	幼児用・仕上げ磨き用の歯ブラシ毛先のがたさはふつうで、ヘッドが小さいものを選びましょう。
歯が生え始める頃 歯が生え始める頃	子どもだけでは、きれいに磨けていないので、仕上げ磨きは必ずしましょう。また、歯ブラシは毛先がひろいものを選びましょう。永久歯が生え変わる準備期でもあります。しっかりと、歯磨きの習慣をつけましょう。

紙芝居型資料 抜粋2



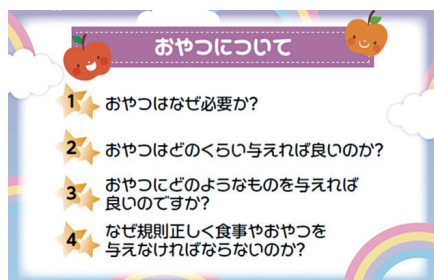
なく、噛むことの重要性についても解説します。

妊婦さんの口腔の健康管理については、進行した歯周病に罹患した妊婦さんの早産リスクに加え、歯周病と関連する糖尿病や喫煙についても話題とします。妊娠中の歯科治療については安定期の受診が望ましいこともお伝えしています。

授乳とむし歯の関連について、授乳回数と授乳期間が長いこと、寝るときの授乳などがむし歯発生リスクを高めることをお話しする一方、個人差があることについても説明し、気長に構えた保育姿勢をお勧めしています。また、はじめての口腔清掃としての乳前歯のケアの話、むし歯予防として、生涯を通じたフッ化物応用についても解説しています。

歯科衛生士の保健指導

妊婦さんへの保健指導については歯科衛生士のみで実施することもあり、また場所



紙芝居型資料 抜粋3

も様々ですので、私の県では紙芝居型の歯科保健資料(1~4)

を歯科医師会で作製し、歯科関連用品と併せて利用しています。

むし歯予防のポイント、歯ブラシの選び方、おやつについて、フッ化物の応用、妊婦さんの歯肉炎や赤ちゃんの乳歯の萌出の口腔内写真なども使用しています。コンパクトにまとめて、どのような機会にも機動的に保健指導ができるようにしています。

周産期の歯科保健における

多職種連携をめざして

プレママ・パパ教室において、歯科医師の健康にかかわる教育講演と実地的な歯科



紙芝居型資料 抜粋4

衛生士のブラッシング指導がセットで実施されることで、受講者への教育効果が上がることが、講演後に実施している受講者のアンケート調査結果に表れています。

また、産科の医療現場と歯科医師、歯科衛生士が協力をして、生まれてくる赤ちゃんを中心とした家族の皆さんの健康リテラシーの向上に役立つことが、我々の大きなモチベーションとなっており、歯科医療の現場にもこれらの経験が生かされていると感じています。

徳島県歯科医師会 地域保健担当常務理事
しもむら歯科医院 院長 下村 学

8020 ひとくちメモ

むし歯の原因と時間

むし歯の原因の一つが砂糖であることは広く知られていますので、お菓子の食べ過ぎ、ジュースの飲みすぎに注意が必要なのは小児の患者さん、保護者の方はほぼご存じと言えます。

むし歯の治療で医院に来院された乳幼児と保護者の方に、「お菓子は減った？ジュースは減った？」と尋ねることが多いのですが、私がこの尋ね方に気を付けなければいけないと思い直した出来事がありました。

炭酸飲料が大好きな、むし歯のやや多

い小学校低学年の患者さんなのですが、いつものように炭酸飲料を減らしましょうとお話していても、あまりむし歯について改善がないように見え、お母さんに尋ねると、炭酸飲料の量を減らすためにコーラのミニ缶を大事に1日かけて飲んでいましたとのお答えでした。

その時私は、むし歯の原因のうち、時間の要素について、しっかり説明できていなかったことを反省しました。いくら砂糖の量が減らせても、砂糖のお口の中の停滞時間が減っていなかつ

た可能性があるからです。大好きな炭酸飲料の量は減らせても、逆にだらだら飲みになってしまったようでした。

むし歯の予防には、生活習慣について細やかな聞き取りが大切なのは当然ですが、最近は生活習慣にかかわる質問と患者さんの家庭生活のプライバシーとのバランスに気を遣うことがあります。歯科医院では、小児患者さんの治療は保護者の方と一緒にいますが、世間話に生活習慣の質問を織り交ぜて、時にはたわいのない話で盛りあがりながら、日々の診療に携わっています。

本会議では、口腔をはじめとする乳幼児期からの健康づくりの啓発と、地域における組織的な活動の活性化を目的に、平成21年度より「健やか親子21—8020の里賞（ロツテ賞）—」を実施しており、審査の結果、各賞の受賞団体が決定した。コロナ禍で対人保健サービスや地域活動に制約があることもあり、応募団体数は昨年に続き少なく、審査会に残った（書類選考で本事業の趣旨に沿うものを選定）団体は7団体であったが、いずれも非常に秀逸な媒体、活動がそろった。審査委員、審査基準は以下のとおり。

【審査委員】

委員長 山本秀樹（公益社団法人日本歯科医師会常務理事）

委員 小前みどり（公益社団法人日本歯科衛生士会常務理事）、清水和正（株式会社ロツテコーポレートコミュニケーション部渉外課課長代理）、佐藤拓代（公益社団法人母子保健推進会議会長）、原澤勇（公益社団法人母子保健推進会議理事長）

【審査基準】

- (1)地域の課題やニーズを汲んだテーマの活動であり、より多くの対象者に啓発することに取り組んでいること
 - (2)行政、専門職、関係機関との連携が密であり、活動の発展が期待できること
 - (3)複合的な取組、または活動（制作物含む）に創意工夫があり、対象者の興味、関心を惹き行動変容に努めていること
 - (4)地元の特産、特徴を取り入れるなど、地域の活性化や新たな連携の構築、拡大につながっていること
- これらの審査基準をもとに審査委員会で検討、投票を行った結果、各賞の受賞団体は、上記のとおりとなった。

<茂原市役所>

保育所、幼稚園等で歯科保健指導は、歯

地域の課題を汲み対象者の関心を

	団体名	媒体名	媒体種類
優秀賞	茂原市役所	おやつガチャガチャ	寸劇、手づくり教材
優秀賞	一般社団法人 島根県歯科衛生士会	元気な子どもは、お口も元気	リーフレット及び動画
優秀賞	健康市民おかやま 21 「山南健康を守る会」	むし歯予防のための紙芝居 「バイバイむしバイキン」	紙芝居、健康情報誌
佳作賞	きらり 8020 めまづ (沼津市 8020 推進員)	パネルシアター「歯の一生」	パネルシアター
奨励賞	砺波市健康センター	砺波市健康センター	手づくり教材
奨励賞	姫路市保健所	むし歯が多い地域における子どもの むし歯予防プロジェクトの推進	調査・啓発チラシ作成等
奨励賞	健康こうじょ 21 推進会	むし歯予防のための大型紙芝居 「たろう君のお口の中は？」	紙芝居、手づくり教材

令和4年度「健やか親子21—8020里賞（ロツテ賞）—」各賞受賞団体

科衛生士2名が「きららちゃん」と「やだよちゃん」に扮し行っているが、導入部分で、より子どもたちの興味、関心を惹くために「おやつガチャガチャ」を作成。つまみを回すと、シナリオに沿ってセットし、ペットボトルに入った歯やからだによいもの、悪いものが順番に出てくる仕組み。段ボールやペットボトルなど



“きららちゃん”と“やだよちゃん”が寸劇で啓発

廃材を利用しているため材料費はかかっているが、園児たちは「ガチャガチャ」に興味を持ち、続くむし歯と食育を交えた寸劇にも、とても反応がよかったとのこと。

<一般社団法人 島根県歯科衛生士会>

約10年前より子どものお口ポカン等口腔機能の発達の遅れが気になり、噛むことの大切さや元気なお口を育てるためにリーフレットとゲーム感覚（ストローで紙の魚を吸い上げる魚釣りやストローを使ったダーツやサッカーなど）で取り組める媒体を作成し、各社イベント屋保育園・幼稚園等での歯科教室で活用している。コロナ禍で十分に説明できないこともあり、動画を作成、DVDにして配付。さらに、家庭で取り組めるよう、動画に出て



“がちゃがちゃ”のつまみを回すと…

くる魚やストロー、ダーツの矢（紙を輪っか状にしたもの）などをプレゼント風にして持ち帰れるようにしている。動画の中では、それぞれの媒体の作り方も説明している。

<山南健康を守る会（岡山市保健所東区保健センター）>

3歳児のむし歯罹患率が高いことから、歯

惹く啓発活動を

8020の里賞
受賞団体決定

身近な材料を使いゲーム感覚で口腔機能を鍛えて

ストローよりも少し太目のペンの芯に紙を巻き付ける
動画では媒体の作り方も指南

科衛生士による講座受講後、子育て中の親および子どもたち向けに紙芝居を作成し子育てサロン等で上演。三世代同居世帯も多いため高齢者を含めた地域全体の歯の健康づくりのための「情報誌」も作成した。「山南健康を守る会」は、中学校区の連合町内会、民

生・児童委員、愛育委員会、栄養改善協議会、社協、市等が協働で活動するため、地域の顔の見えるメンバーによる活動のため、健康課題をより

身近に認識したとの声もあった。
佳作賞の「きらり8020ぬまづ」は、パネルシアター「歯の一生」

を作成。「イタイタイ君」と「ニコニコちゃん」の2人が、お母さんのおなかの中から、80歳になるまでを追っていくという内容。

奨励賞の「砺波市」は、「むし歯って何だろう」、「おやつを食べ方とむし歯の関係」、「砂糖の量を知ろう」、「歯みがきの仕方」の4つのテーマで媒体を作成。直径40センチの紙をカットして作成した口や縦54センチの巨大なスティックシュガーで飲料等の砂糖の含有量を示すなど、子どもの関心を惹く工夫が見られた。

「姫路市保健所」の「むし歯が多い地域における子どものむし歯予防プロジェクトの推



むし歯予防の紙芝居 色塗り作業中の様子

進」は、同市の離島では3歳児健診のむし歯罹患率が市の全体と比べ2～3倍高いことから8年間のプロジェクトを立ち上げ関係機関と共に実施。啓発チラシの作成、「ノーマカシデー」「食べたらみがく」の取組、評価など専門職、自治体ならではの優れた取組。

「健康こうじょ推進会（岡山市保健所南区西保健センター）」は、興除中学校の3歳児健診時のむし歯罹患率が高いことから、むし歯予防の大型紙芝居を作成し、中学校美術部や公民館と協働で保育園や公民館等で上演。さらに、コロナ禍を考慮し動画を作成した。

表彰式は「健やか親子21全国大会」併設『母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会』で行い、会場ロビーで媒体・活動の展示を行うこととしている。

令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

「都道府県や県型保健所による子育て世代包括支援センターの機能強化支援のための研究」研究班シンポジウム

妊娠期からの切れ目のない支援～こども家庭センター設置に向けて～

令和6年4月から児童福祉法等の改正で、子育て世代包括支援センター及び市区町村こども家庭総合支援拠点が、子育て世代補包括的に支援課もこども家庭センターとなります。

子ども虐待死亡事例が減少しているフィンランドからタンペレ大学のエイヤ・パーヴィライネン教授(を講師に迎え、妊娠期から切れ目のない支援のためのポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの連携を学び、効果的な支援のためのシンポジウムを開催します。

日時 令和4年10月14日(金) 13時30分～16時30分

会場 新宿区立新宿文化センター小ホール(東京都新宿区新宿6-14-1)

内容 ①これまでの研究報告、都道府県および県型保健所の子育て世代包括支援センターへの支援に関する調査報告

公益社団法人母子保健推進会議会長 佐藤拓代

②フィンランドにおける妊娠期からのポピュレーションアプローチと

ハイリスクアプローチ

恵泉女学園大学教授 高橋睦子

③フィンランドにおける子ども虐待予防の支援

タンペレ大学教授 エイヤ・パーヴィライネン(通訳付き)

申し込み メールで所属・職種・氏名をお知らせください。bosui@bosui.or.jp 受講料無料。

*詳しくは、公益社団法人母子保健推進会議のホームページをご覧ください。http://www.bosui.or.jp

皆さまのご参加を
お待ちしております！

「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」

令和 4 年度「健やか親子 21 全国大会」を 10 月 27 日（木）・28 日（金）、島根県民会館（島根県松江市）で開催します。大会に併設して、本会議等主催により「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」を 10 月 27 日（木）14 時 50 分より、島根県民会館中ホールにて開催します。

本集会では、地域における乳幼児とその親を対象とした健康づくりのためのボランティアな活動の紹介と表彰、講話では、妊娠期からのむし歯予防について、特別講演では、厚生労働省母子保健課長から母子保健行政の最新の情報をお話いただきます。

最後のシンポジウムでは、様々な背景を持つ親子をすべて支援していくためにはどうしたらよいか、工夫は？など 2 自治体から取り組みを紹介していただきながら、皆さんと考えようというものです。母子保健、子育て支援に係る様々な職種、立場の方々が集まるからこそこのプログラムです。皆さまのご参加を、お待ちしております！

<プログラム>

- 14:50 開会 主催者挨拶・来賓挨拶
- 14:58 「健やか親子 21-8020 の里賞（ロッセ賞）」受賞活動の紹介、講評及び表彰
講評 公益社団法人日本歯科医師会常務理事 山本 秀樹
- 15:15 講話「マイナス 1 歳からのむし歯予防」
静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科教授 仲井 雪絵
- 15:45 特別講演「最近の母子保健を取り巻く状況」
厚生労働省子ども家庭局母子保健課長 山本 圭子
- 16:15 シンポジウム「妊娠期からの切れ目ない“皆支援（かいしえん）”」
基調講演／座長 公益社団法人 母子保健推進会議会長 佐藤 拓代
事例報告①「浜田市における妊娠期からの切れ目のない支援（仮）」
島根県浜田市子ども・子育て支援課子育て支援係 保健師 伊藤 恵
事例報告②「光市における妊娠期からの切れ目のない支援（仮）」
山口県光市健康増進課 保健師 影土井 圭子・江藤 沙綾
ディスカッション（終了 17:50）

「健やか親子 21 全国大会（母子保健家族計画全国大会）」のご案内

- 期 日 令和 4 年 10 月 27 日（木）・28 日（金）
- 会 場 島根県民会館（松江市殿町 158）
- 主 催 厚生労働省・島根県・松江市・社会福祉法人恩賜財団母子愛育会・一般社団法人日本家族計画協会・公益社団法人母子保健推進会議
- 内 容 式典（厚生労働大臣表彰・各団体会長表彰）、特別講演等
特別講演 「お産の現場から考える子育て支援（仮題）」 講師 荻田和秀
シンポジウム 「多職種で見て、つないで、支える子育て支援」

編集帖

令和 4 年度「健やか親子 21 全国大会（母子保健家族計画全国大会）」が、10 月 27・28 日、島根県民会館を会場に開催される。対面での開催は 3 年ぶりとなる。500 円玉貯金をするなどして毎回楽しみに来てくださる母推協議会等もある。久々にお会いできることに、感慨すら覚える。

“コロナ” が社会の中心にのさばるようになって 2 年半余が経つ。未知の敵に立ち向かいつつ会得したこともある。日々のコミュニケーションツールをケースバイケー

ス、または段階によって使い分けることを私たちは身につけた。相談も、入口として SNS 活用しつつ、信頼関係を構築してメールや電話に、ケースによって対面に移行されているところもある。“WITH コロナ” 時代となっても、選択肢が増えた良さは生かしていきたい。

今年度対面で開催の「健やか親子 21 全国大会」・併設集会は、対面ゆえのよさを皆さまに十分味わっていただけるよう準備を進めています。乞う、ご期待！ （Y）



発 行：公益社団法人 母子保健推進会議
発行人：原澤 勇 編集人：鎌溝和子
協 力：全国母子保健推進員等連絡協議会

東京都新宿区市谷田町 1-10
保健会館新館（〒162-0843）
TEL.03-3267-0690 FAX.03-3267-0630
E メール bosui@bosui.or.jp
URL <http://www.bosui.or.jp>

年間購読料 2,640 円（税別）
母子保健推進員等特別価格
年間購読料 1,320 円（税別）
郵便振替口座 00120-9-612578